

Sé Catedral da Guarda

について



写真: Shutterstock_milosk50

グアルダのス・カテドラル (Sé Cathedral)

グアルダは、その創設以来、この教区の中心地ですが、現在市の中心地に見られるこの建物は、ドン・ジョアン1世 (D. João I) の主導で、城壁の外に建てられていた旧ス・カテドラルに代わり、1390年に着工されたものです。

しかし、その建設工程は非常にゆっくりとしたもので、ドン・ジョルジュ・デ・メロ (D. Jorge de Melo) が司教を務めていたドン・ジョアン3世 (D. João III) の治世である1517年になって、ようやく完成しました。一般的に、ゴシック様式に分類されるこの建物は、バタルハ (Batalha) 修道院の建築的影響が感じられる、落ち着いた風情の外観を備えています。印象的な八角形の2つの大きな塔は、ポルトガルの大規模なカテドラルも国家の主張を示した時代らしい、教会要塞の外観を与えています。ただし、この落ち着いた外観においても、ゴシック様式の主玄関やルネッサンス様式の側方の玄関などは例外で、エレガントな装飾や入り口を備えています。当時、フゲット (Huguet)、ディオゴ・デ・ボイタック (Diogo de Boitaca)、マルコス・ピレス (Marcos Pires)、ペドロ (Pedro) およびフィリペ・エンリケス (Filipe Henriques)、マテウス・フェルナンデス (Mateus Fernandes) の息子たちなどの有名な芸術家がこのカテドラルの仕事に携わりました。

この教会は、3つの身廊 (中央の身廊が他より高くなっている) と、幅の広い翼廊、互いに通じた3つの礼拝堂のある先端部で構成されたラテン十字架状の形状で、中世の代表的なレイアウトと言えます。

内部の見所は、アンサン (Ançã) の石材に彫刻を施した、主礼拝堂の荘厳なアルターピースです。アルターピースには、アプスの半円形の形状に沿って、4つの階層レベルがあります。第1レベルには十二使徒、第2レベルにはモーゼス、エセキエル、エリヤ、ダニエル、受胎告知、キリスト降誕、第3レベルには聖母被昇天、そして第4レベルにはキリスト受難のシーンが表されています。このアルターピースは、ジョアン・デ・ルアン (João de Ruão) が制作したルネッサンス様式の作品ですが、この町の背景において特別なものであるため、学理上非常に重要とされています。この作品は、モンサントの名士、ドン・クリストヴァン・デ・カストロ (D. Cristovão de Castro) 司教が作らせたものです。ドン・クリストヴァン・デ・カストロは、彼の誕生の地でありその生涯を終えた地でもあるコヴィリヤンの要塞指揮官の長 (Principal Alcayde of Covilhã) でした。ヒューマニストの彼は、教皇アレクサンデル6世 (Alexandre VI) の宮廷で、ドン・マヌエル1世 (D. Manuel I) のローマ特使として仕えていた経験があり、その中で、自分の教区に活かしたいと感じるような新たな芸術的事業に出会いました。

問い合わせ先

Praça Luís de Camões 6300-725 Guarda
電話 : +351 271 212 993

バリアフリー案内